

2025 年

9月号

103号

念慶寺だより

固定電話は住職の携帯
電話に転送されます

〒529-0341 長浜市湖北町速水 921 番地 【0749-78-0312】

戦後80年・昭和100年

戦没者を憶念する碑前法要



陣の森会館で行った碑前法要（8月13日）

日常の大切さ

今年は戦後80年、昭和100年になります。この時間の経過は、戦争経験の記憶継承が困難になりつつあることを同時に示しています。

速水仏教会では遺族会の方々と共に、毎年8月13日に陣の森広場に設置されている表忠碑の前で法要を勤めてきました。昨年からは猛暑を避けるため会場を隣接する陣の森会館に移して勤めています。

今回はこんな話をしました。

今年は大きな節目であることから、戦時下の体験に触れようと、いわゆる戦争文学をいくつか読みました。最高傑作とも言われる大岡昇平『野火』は、極限に追い込まれた兵士の心理描写に迫るものがありました。しかし、一番心惹かれたのは戦場ではなく、戦後に綴られた向田邦子のエッセイ「ごはん」でした。

彼女は14歳で東京大空襲に遭うのですが、奇跡的に家族も無事で家も焼失を免れました。この後に焼夷弾がくるかもしれない、大切なものを取り出そうとするのですが、ここで父親から、「ごはんを食べよう」と呼びかけられました。いつ焼夷弾が飛んでくるかわからないという状況の中で。

（裏面につづく）

9月28日（日）午前10時から
念慶寺永代経

講師 松扉 達（金沢）

今月の仏花



9月に入り、仏花を改めました。真にはセッカヤナギ（石化柳）を用いています。これはオノエヤナギという品種が病となり、茎が平らに奇形したものだそうです。これを石化というそうです。

独特に捻れ曲がる様が面白く厚さにも強いのが特徴です。ただ御本尊の前に置くと、背景に溶け込んでしまい、何が立てあるのかが見えないということが起こってしまいました。今回は少し失敗ですが、このままおかざりします。

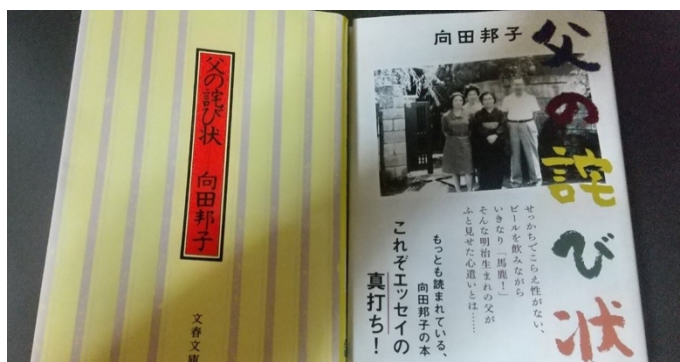
…父親の号令を受けて家族は、床下の地面の下に埋めて隠していた食料を取り出し、サツマイモの天ぷらと白飯のごはんをみんなで食べたそうです。

向田邦子は「戦争。家族。ふたつの言葉を結びつけると、私にはこの日の、みじめで滑稽な最後の昼餐が、さつまいもの天ぷらが浮かんでくるのである」と語る。

よくよく考えると、東京大空襲という非常時の中、私たちは「みんなでごはんを食べよう」という行動を起こすだろうか。非日常の空気に飲み込まれて行動するだけなのではないかと思います。

向田一家はこの非日常の中で日常を大切にし、日常を手渡さなかったとも言えます。時代は流れ、これまで間違っていると思っていたことも、それが常識になっていくことがあります。その中であって日常を失わないことの大切さを思います。

向田邦子「ごはん」、これは彼女独自の反戦を込めたエッセイなのだと思います。



念慶寺永代経法要【9/28】

今年も、昨年の法要後からお亡くなりになった方の遺影を掲げて、永代経法要をお勤めします。今年は寛幸雄さん、杉田忠一さんの遺影を掲げます。

社会状況が変わり、葬儀のあり方も様変わりしました。お別れをきちんとできなかったという「あいまいな喪失」をお抱えの方は、この場で焼香・合掌していただければと思います。法話は東本願寺の長浜支所勤務で元同僚の松扉達さんをお願いしています。多少ましになることを願っていますが、みなさんぜひお参りください。

長浜21組会・組門徒会【8/21】

速水学区・小谷学区の寺院で構成する長浜21組の会議が開かれ、予算決算や年間行事が定まりました。研修や法座など主なる行事を同封しましたので、ぜひともご参加ください。

なお、会議当日は平日のため住職は参加できず、組門徒会員をお願いしている藤本隆章さん、嶋田千代子さんに出席いただきました。

念慶寺ホームページ

念慶寺

検索

念慶寺のフェイスブックページ、速水馨のインスタ・ブログもあります。

住職携帯 090-8536-8533

メール kkhayami02@gmail.com



HPのQRコード